

おもちゃ修理体験学習の概要

1. はじめに

おもちゃ修理体験学習は、福岡県糸島市でふとしたきっかけで始まった学習形態です。

壊れたおもちゃを無償で修理しているボランティア団体おもちゃ病院伊都国の活動は、子ども達の健全な育成と環境意識啓発の理念が評価されて、市の広報誌や新聞・テレビに度々紹介されたほか、数々の公的表彰の荣誉に輝いています。

おもちゃ修理体験学習はこのおもちゃ病院から派生した活動で、生徒が自宅から持ち寄った壊れたおもちゃを自ら修理する体験学習を、おもちゃ病院スタッフがゲストティーチャーとして支援しています。



おもちゃ修理体験学習の実施状況

2. 具体的な実施方法

学校との打ち合わせで学習実施日が決まったら、次のステップで進めています。

(1)	3週間 事前説明会	学習の意義や修理の概要を生徒に説明し、壊れたおもちゃや修理用工具の持寄りを要請。
(2)	2週間 教材選定	持ち寄りおもちゃの修理難易度を仕分け、対象学齢の生徒が所定の時間内に修理できそうな物を教材に選定（持ち寄りおもちゃは通常30個程度で、教材に使えるのは半数程度）。教材不足の場合は学習実施日までに育児施設などから集めておき、修理に必要な部品や材料を実施日までに準備。
(3)	当日 学習実施	生徒を5名前後の班に分けておもちゃ病院スタッフが各班を分担し、子ども達に①考えさせる、②相談に乗る、③助言する、④道具の使い方などを教える、⑤難しいところは手助けする、⑥出来たら褒める。（教材の各班配分は、なるべく持ち主が自分のおもちゃの修理に関われるように配慮） 修理に必要な部品・材料はおもちゃ病院から提供し、足りない工具はおもちゃ病院スタッフが貸与。
(4)	2週間後 教材外返却	(2)で教材に選定しなかったおもちゃをおもちゃ病院で修理して、持ち主に返却。

当初はいきなり(3)でしたが、H22年度から(1)を加え、更にH23年度からは(2)を加えたことによつて格段に充実しました。

学習に参加するおもちゃ病院スタッフはH20～H22年度は6～8名でしたが、H23年度からは団体構成員の増加と相まって13～18名になり、行き届いた指導ができるようになりました。

3. 実施例

H29年12月現在で以下の7校で16件の実施例があり、一部の学校には定着の兆しがあります。

実施に至る動機は様々ですが、その成果は座学や施設見学では得難い「生きた環境教育」として高く評価され、生徒の挑戦意欲の育成や科学技術への関心効果も実証されています。

項番	実施年月	場所・学齢・形式	実施内容と成果	備考(実施に至る動機など)
1	H20/10	二丈町立二丈中学校 3年生 環境対策体験授業	総合学習の授業で、中学生が近接の深江保育所に出向いて、保育所の備品や生徒が持ち寄った壊れたおもちゃの修理に取り組み、工夫しながらおもちゃを修理する体験と修理できた達成感と共に、園児に感謝される喜びも体験。 学習は7名前後の3班に分かれ、班毎に5～10個のおもちゃを修理。 学習当日の参加スタッフ数:7名。	(1)二丈中教師から環境学習改革の相談を受けた町役場の環境担当職員が、おもちゃ病院の体験を示唆、 (2)教師から協力依頼を受けた当団体が、学校での体験学習を企画・提案・実施
2	H21/7	前原市立南風小学校 4年生 環境対策体験授業	総合学習の授業で、生徒が持ち寄った壊れたおもちゃの修理に取り組み、工夫しながらおもちゃを修理する体験と修理できた達成感を実感。学習は5名前後の班に分かれ、班毎に5個前後のおもちゃを修理。生徒の体験を記した学習シートがある。学習当日の参加スタッフ数:6名。	おもちゃ病院スタッフが知り合いの教師に項番1の事例を紹介。 教師は小学4年生の担任で、4年生の修理能力が懸念されたが、指導法の工夫で解決
3	H22/11	糸島市立東風小学校 全学年 おもちゃ修理体験教室	PTAバザー会場で、親子が一緒になって自宅から持ってきた壊れたおもちゃの修理に取り組み、工夫しながらおもちゃを修理する体験と修理できた達成感を実感。親子の新たなコミュニケーションの場にもなった。保護者の都合で、生徒だけが友達同士で参加した例もあった。 学習当日の参加スタッフ数:8名。	元教師の紹介で、同教師の後輩教師におもちゃ病院スタッフが提案。授業時間不足でPTAバザーでの開催になり、保護者と生徒と一緒に体験することになった
4	H23/7 ～ H29/5 (7回)	糸島市立一貴山小学校 4年生 生活科授業	生徒が持ち寄った壊れたおもちゃの修理に取り組み、工夫しながらおもちゃを修理する体験と修理できた達成感を実感し、担任からは「あの日から子どもたちが確かに変わった」という評価。学習は4～5名の7～8班に分かれ、班毎に5個前後のおもちゃを修理。生徒達からおもちゃ病院へのお礼の寄せ書きやお手紙が寄せられた。 学習当日の参加スタッフ数:年度のより13～18名。	H23は、おもちゃ病院スタッフが知り合いの教師に項番3の事例を紹介。爾後は毎年学校から依頼されるようになり、回を重ねて指導内容も充実したので、H24には市教委に報告。
5	H25/1 ～ H27/12 (4回)	糸島市立引津小学校 43年生 総合学習(H25/1だけは3年生)	生徒が持ち寄った壊れたおもちゃの修理に取り組み、工夫しながらおもちゃを修理する体験と修理できた達成感を実感。「校長室だより」で校内に紹介された。学習は4～5名の6班に分かれ、班毎に5個前後のおもちゃを修理。生徒が体験を記した学習シートがあり、生徒からおもちゃ病院への寄せ書きやお礼の手紙が寄せられた。学習当日の参加スタッフ数:年度のより11～16名。報告書あり。	項番4の事例を知った小学3年生の保護者が、子息のクラスでの実施を学校に提案。3年生の修理能力が懸念されたが指導法の工夫で解決。H25年度以降は4年生の総合学種で実施。
6	H29/11 (1回)	糸島市立長糸小学校 4年生 生活科授業	生徒が持ち寄った壊れたおもちゃの修理に取り組み、工夫しながらおもちゃを修理する体験と修理できた達成感を実感。H29/11には校区文化祭で「一緒に考えよう!ルデュース・リユース・リサイクル」のテーマで発表された。学習は4～5名の5班に分かれ、班毎に3個前後のおもちゃを修理。生徒が体験を記した学習シートがあり、生徒からおもちゃ病院への寄せ書きやお礼の手紙が寄せられた。報告書あり。	引津小では学校側の事情によりH28年度以降の開催が見送られることになったので市教委と相談の結果、1学年1学級の小規模校での実施を前提に、長糸小・桜野小をご紹介頂き、両校からの実施依頼があった。
7	H29/12 (1回)	糸島市立桜野小学校 4年生 生活科授業	生徒が持ち寄った壊れたおもちゃの修理に取り組み、工夫しながらおもちゃを修理する体験と修理できた達成感を実感。学習は4～5名の5班に分かれ、班毎に3個前後のおもちゃを修理。生徒が体験を記した学習シートがあり、生徒からおもちゃ病院への寄せ書きやお礼の手紙が寄せられた。報告書あり。	

(注) 項番1の二丈町・項番2の前原市は、2010(H22)/1の合併により現在は糸島市

4. 体験学習の目的

(1) 環境対策の基本である「環境の3R(*)」を実践し、環境意識の啓発と定着を図る。

*: Reduce:ごみを減らす、Reuse:再利用する、Recycle:再資源化する

(捨てればゴミになる壊れたおもちゃも、修理すれば再利用できるし、そのおもちゃにまつわる思い出も蘇る。修理不能な物は他のおもちゃの修理用部品取りに回す)

「環境の3R」は、東京書籍「新しい社会4年生」のP69にも紹介されています。

(2) 自分で修理したおもちゃには一層愛着が増し、生き返ったおもちゃと再び遊ぶことを通じて、物を大切にする優しい心の醸成を図る。

(3) 工夫しながら自分で修理した体験と修理できた達成感によって挑戦意欲を啓発し、壊れた物は何でも修理しようと思う動機づけをする。

(4) 好奇心の刺激が科学技術への関心を高め、生徒の理科離れ防止に寄与する。

(5) 「壊れた物を棄てないで、修理して再利用する」子どもの学習を通じて、保護者の環境意識啓発にも寄与する。

5. その他 (ボランティア団体おもちゃ病院伊都国について)

詳しいことは、ホームページ(http://www.geocities.jp/omotya_itokoku/index.html)をご覧ください。
(ホームページは、「おもちゃ病院伊都国」で検索できます)

- a. 設立: 2007(H19)年9月4日
- b. 活動地域: 主として糸島市と福岡市西部
- c. 構成員数: 21名 (H30/4 現在、平均年齢 69 歳)
- d. 活動状況
 - ① 定期開設: 年間18回 (糸島市子育て支援センター「すくすく」と波多江公民館)
 - ② 出張開設: 年間約 10 回 (糸島市や福岡市のイベントなどに協賛)
 - ③ おもちゃ修理体験学習: 年間 1~3 回 (糸島市立小中学校)
- e. 受賞記録

当団体の活動は社会的にも高く評価され、数々の表彰の荣誉に輝いております。

(特に太字の②③④⑦⑨は、おもちゃ修理体験学習と密接に関係しています)

また、高齢化社会に対応した福岡県の「70 歳現役社会づくり」施策のモデルケースに採択されています。

- ① 平成 21~23 年度 全労済 地域貢献助成事業団表彰
- ② **平成 22 年度福岡県市民教育賞(地域社会教育賞)、**
- ③ **平成 24 年度ふくおか共助社会づくり表彰(地域貢献活動部門賞)**
- ④ **平成 25 年度朝日のびのび教育賞、受賞テーマ: おもちゃ修理体験学習**

(朝日のびのび教育賞)は、多様な教育活動に光を当てることを目指して平成 11(1999)年に創設された、朝日新聞社の全国規模の表彰制度です)

- ⑤ 平成 25 年度福岡県「70 歳現役社会づくり」施策の規範(ホームページ・ポスター・チラシに掲載)
- ⑥ 平成 26 年度糸島市社会福祉大会表彰(優秀賞)
- ⑦ **平成 26 年度福岡県ふくおか地域づくり活動賞**
- ⑧ 平成 26 年度「親切会」善行賞

(「親切会」は、お互いに親切にしあったり、困っている人たちに援助の手を差し伸べたりして、世の中を明るく住みよい社会にしていこうと取り組んでいる日立グループのボランティア団体です)

- ⑨ **平成 28 年度 環境大臣表彰(循環型社会形成推進功労者)**

(限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会(=循環型社会)を目指す「3R(*)活動」は全国規模で推進されています。*:Reduce:ゴミの発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再資源化)

おもちゃ病院伊都国は、壊れたおもちゃを無償で修理する「おもちゃ病院」の活動をはじめ、「おもちゃ修理体験学習支援」や「かえっこ×おもちゃ病院」や「おもちゃ箱」など、おもちゃ病院から派生した様々な取組を通じて、子供たちが楽しみながら3Rについて学べる活動を続けていることが評価されて、この受賞に至りました)

- ⑩ 平成 29 年度糸島市地域活動振興奨励者顕彰

糸島市地域活動振興奨励者顕彰は、青少年の健全育成並びに社会福祉等に献身的に活動を続け、地域社会の向上に寄与された団体や個人を顕彰する制度です。

6. むすび

ふとしたきっかけで始まったおもちゃ修理体験学習は、多くの可能性を秘めた「生きた環境教育」と評価されおり、支援体制の強化と相まって回を重ねるごとに充実して参りました。

社会的にも評価が高まり、特に平成 25 年度に「朝日のびのび教育賞」・平成 28 年度に「環境大臣表彰」を受賞したことは、全国的にもこの活動が注目されている証と存じまして、今後も自信と誇りを持ち、更なる充実と発展を期して取り組む所存です。 ご意見やご提案をお寄せ願います。

— 以上 —